

五層七重の七天守閣には、地階から五階まで豊臣香吉を中心、織田信長、徳川家康に關する所謂安土桃山時代の文物と、明治天皇、昭憲皇太后ゆかりの品々が数多く展示されてゐる。こんなな多数の品が失われずによく残されたものだと、且つ驚き且つ喜んだものがあるが、吉野に到つて更に此の感を深くした。

吉野は花が散つて、葉桜にはまだ早い風情のない時であつたが、取書よりも軍書に惹き吉野山への探訪を目ざす私にはそれは問題でなかつた。蔵玉堂、吉水神社、如意輪寺等の宝物館には、南朝五十余年の血涙史を語る数々の遺品が陳列されてゐる。更にさかゞびつて源義経や後妻静の遺跡遺品に接したのも嬉しいことであつた。

とこゝろで、伏見桃山城及び吉野に共通して私の関心事をそつたことは、個人所有の品が沢山出品展示されてゐることである。詳細な所有者の紹介及び由来書が添えてあるので、読む程に温かい息吹に接する様である。伏見桃山城には京阪神の人、吉野には京阪神をはじめ吉野近郊の人々出品が多い。

ここで考ふる。文化財は個人が所有して愛蔵し鑑賞すること勿論結構であるが、それでは死蔵の感がないでもない。之を前記の様な施設に出品展示して、広く天下の人々に鑑賞させることは、日人とうに我を生かす道ではあるまいか。そこには嚴重な保管、管理を前提として、所有者と借受者との間に幾多の解決せねばならぬ問題があることは当然であるが、それ等と乗り越えて展示には頭の下るものがある。

佐伯市で待望の文化会館が建設に向つて歩を進めてゐることは同慶の次第である。そつてその一郭に文化財の展示場が設けられる由で、これも嬉しいことである。此

の際市当局も個人所有者も先達地の例にならつて、出席展示に踏切つてはどうかであるか。敢て一言を呈して關係者の考慮を求めらるゝものである。
(以上)

研究

疫 神 齋

佐伯地方の祭祀 (八九)

五十川 千代 見

南海部郡弥生町大字は良字祇園に鏝屋する八坂神社の祭祀、旧曆正月二十九日へ大安日に當るに、毎年きまつて神社の境内で「疫神祭」へえきしんさい」といふのが執行される。それを紹介して見よう。

疫 神 塚 作り

立春の日(以前は旧曆で祭日の二十日)と前の大安日(日)に依る。八坂神社の神威左側の一畝高いところ、十五坪ほど八玉垣の内に三四人で作る

疫神塚作りは必要なものだ

◇ 厄久米笹(端出之笹)普通シメ笹と呼んでゐる

長さ 二十四尺 八本

長さ 六十尺 一本

長さ 九尺 三本

◇ 竹(佐伯地方で男竹といわれている)

長さ 八尺 径一〜二寸程度 十二本

長さ 五尺 径一〜二寸程度 八本

(旧曆閏年には十三本、即ち月夜)

長さ 八尺 径一し二寸程度 四本

(こま以上部に葉を葉についたもの)

◇和紙 八十枚

◇蓆(こま) 藁で編んだもの

長さ 十尺 幅 三尺 二枚

長さ 三尺 幅 三尺 一枚

(こまは片方の耳から葉を葉を出し)

◇御山櫛

主木 十二本 (一年十二か月を意味する)

小枝 三百六十五本 (一年三百六十五日)

作り方

竹十二本を径三尺程度に丸く立て廻して、それに蓆と二枚二段に巻き付け、縄で結びつける。その上部に竹と

藁に二本一組でその

間には櫛の小枝三百

六十五本を挿しこ

んで丸く結びつけ

る。その上に穂先

のついた藁を巻き

最上部に櫛十二本

と御幣三本を立て

る。

上部の藁に尻久

米穂二十四尺八本

と、三尺ほど一

本の縄にして結び

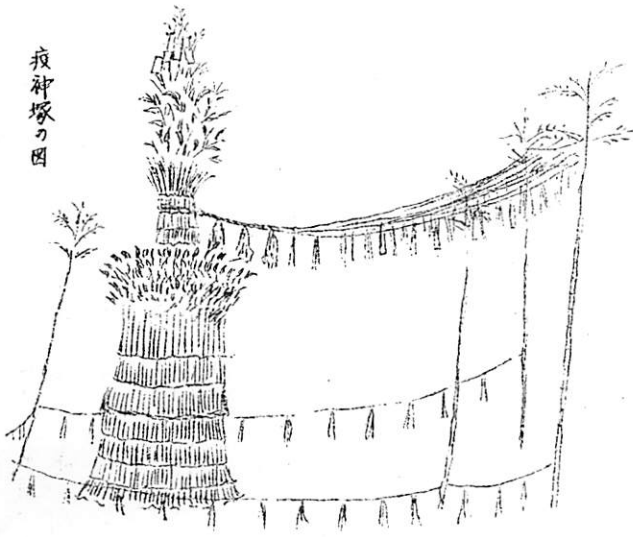
それを横に八本の

縄を社殿の板壁に

それぞれ二尺ほど

の間隔に結ぶ。塚

疫神塚の図



本の方には大房の垂四手へ紙垂(四垂)を三分所に下げ、他は小さいのを尻久米縄に点々と垂らす。

出束上げられ、塚の四方に蓆葉のついた竹を立て、周囲に尻久米縄を張りめぐらす。そして俗人の近づけないよう聖域にする。

この塚の中に疫神を封じ込めようである。

一月二十九日の祭礼には、午後一時より、横笛、鉦、大太鼓、小太鼓の拍子で佐伯神樂が奉納される。それが終ればいよいよ疫神齋が始まる。

疫神塚の前で御祓行事があり、神主が祝詞を奏上する。そして神殿の外の広場で、湯立神樂が行われる。舞子も鬼面をつけ、白衣、白袴、日笠、草履。中央は太鼓の伴奏に左足湯と蓆葉の束に受けては浴びる。しきりに周囲にも撒き散らし、取まいてなかにいる祭客に下まがけてもよる。

この湯を飲めば、今年は無病息災であるといわれ、進んでかけてもらう。神樂が終りに近づけば舞子が手拍子でいよいよ蓆葉を半つて奪い取る。この湯を午馬に食べさせて安全を願う。

かくて祓禊部落の世話人二人が代表で疫神塚に火をつけ、流行病を運ぶ悪神を焼き送るのである。これと同時に餅撒きとする。この餅を食べれば疫病ははかからなるといわれ、小さな餅でも焼いて小さくもけて、一人でも多くの人に接待するものである。

橋迫社家に所蔵の、天明二庚午正月二十九日の疫神齋御札の配札記録によれば、三、七、七、三枚、佐伯藩全域に配られていたようである。現在でも蒲江町の丸市辰(百二十枚)や尾浦(四十三枚)など、毎年廿の代表がこのお

祭りに参拜して御札を受けてゐる。

御札は和紙で、梶子(くぢまじ)の果実で紅黄色に染めた
ハに「祇園社疫神齋」と書かれていたが、明治の初年頃
より「八坂神社疫神齋」となり、梶子深日していない。
尚疫神齋の由来については、橋邊社家に次のような記
録がある。

疫神齋の由来

往昔須佐之男命備後國御幸行の時、蘇民將采、且
將采と云う人ありき、命宿を借り給ふに且且將采は
家富にして百家ありとも吝にして之と拒む。蘇民將
采は家貧なれども其れに反して仁心あり、命を迎え
て宿を貸し給ひて饗し奉る。命詔曰く「我為之報」
汝子孫何人ありやと問給ふに、蘇民將采答申し、己
れ女ふと妻ありと申す。命詔曰く教給ふことあり、
其の教の如くし給ふ。即ち於是大疫ありて蘇民と
妻子とを除き皆悉く遭て缺亡云々(備後風土記)
右記の由緒により当社祠官橋邊若狭守藤原斯雅天下蒼
生ノ為人皇第百十八代光格天皇の天明二年正月二十
七日と卜して疫神齋を創始す。爾來年々絶ゆることな
く正月二十九日(毎年大安日に当る)と定日として盛
んに執行す。

(奉斎資料)

八坂社縁起記由緒 (橋邊社家藏)

一 御鎮座地 大分県南海部郡切畑村大字江良字祇園 一四二六

一 御社名 八坂神社と称ふ 往古は祇園宮又祇園

一 神社格 旧神社

一 御祭神 素盞鳴尊

横箱田娘命 八鴻篠見神

五十發神 大座比賣神

大市比賣命 大年神

宇賀之御魂神 狐津比賣神

佐美良比賣命 大座比古神

須摩理比賣神

合祀 菅原神 荒佐古大神 富尾大神

人皇第五十一代牙城天皇の御宇、大同元年京師八坂

神社の御分靈の御勧請申すと伝ふ

佐伯藩主毛利家の尊崇篤く、年々奉拜せらる。(以上)

研究

御年貢の上納 (三)

——赤水村大正屋文書の周辺(その五)——

会 員 羽 柴 弘

世俗は、年貢の納めどきという言葉がある。悪事を働
きつづけた者が、遂に捕えられて法による断罪に服すべ
き時か米を、親念すべきであるといふ謂である。

百姓の年貢の納め時は師走(陰曆十二月)である。そ
か言葉が示す通り、まことに悲痛な、一年の勞苦の結晶
といふべき米を、ゴツソリと收奪される時である。金
銭に在る以前或類に属するものも雜稅も、すべて米で納
めなくてはならなかつたので、土公土民どもはなほ、
給んどゴツソリと上納が強いられてゐた。